

江岑一翁兩人相談の上好、尤風呂先ヌリ廻し、板巾八寸、又中板入臺目切、

三疊敷 江岑好、壁床也、

三疊臺目 織部好

三疊四疊五疊六疊までも、臺目切は皆織部より好始る、今三疊臺目敷内にあり、是も織部好、三疊向板入る、は啐啄齋也、利休の一疊半と、江岑の三疊とを合て啐啄齋好まる、といふ、

長四疊 元伯好

大徳寺見性庵にあり、上ヶ臺目なり、

不審庵 少庵本法寺前へ變宅の節、利休居士の遺圖によつて建らる、○圖略

四疊臺目 織部好總じて四疊半、二疊臺目、一疊半、此三座敷が小ざしきの濫觴也、其餘のこのみは、此三座敷より變じて來るなり、

但し廣間は、四疊半已上をいふなり、

〔茶道要録上法〕座席之段々同床之事

座席ハ一疊半ヨリ二疊同半、三疊同半、又平三疊ト、深三疊アリ、平ヨリ入ヲ平三疊ト云、狭キ方ニ口有テ容ヲ深三疊ト云リ、長四疊、四疊半、此分定レル小座席也、六疊八疊敷タリト云、共、勝手ハ右同然也、各牀モ堂庫モ可有、架モ一重二重筋違アリ、何モ悉ク寸法アリ、

〔茶譜十四〕一利休流ニ、座敷ノ疊一間ニ不足ハ、半疊ニ不限何レモ半ト云、或ハ一疊半、或ハ四疊半ト云ナリ、依之何疊半ノ座敷ニ中柱ヲ立タ座敷ト云、又ハ何疊半ノ小座敷ニ茶立所ヲ付テト云、右宗旦曰、當代中柱ヲ立テ茶ヲ立ル、疊一間ニ一尺六寸ホド短ヲ大メト云、此大メト云子細、曾テ不聞届誤ト云々、

右當代ハ何疊大メトナラデハ不云、之モ古田織部時代ニ、或ハ四疊半ノ圍ニ又中柱ヲ立テ、茶